



編集 はなぐるま編集委員会

〒141-0031 品川区西五反田3-6-3 TEL:3491-2000

sakidai@city.shinagawa.tokyo.jp FAX:3491-2002

発行元 大崎第一地域センター

品川区に今も残る 伝統工芸

日本刺繡は、絹地に絹糸で施す刺繡のことを指します。フランスやインドなど、各国の伝統的な刺繡がある中、日本刺繡の特徴は絹糸ならではの繊細な色使いや柔らかさです。今回は、日本刺繡作家の 笹原木実(ささはるみ)さんにお話を伺いました。

自由に楽しく日本刺繡を身边に

笹原さんが日本刺繡と出会ったのは十八歳のころ。デパートのカルチャーセンターに通い、日本刺繡の楽しさを知りました。その後、上皇后美智子さまのローブデコレーション製作や貴乃花の化粧回しを手がけた秋山光男氏に師事します。それから十五年以上、「日中は仕事」「夜や休日は日本刺繡」を両立する生活を続けていましたが、日本刺繡の道に進むことを決断し、教室を始めました。

品川区にある笹原さんの日本刺繡教室の特徴は何より「自由」なのです。

「日本刺繡では定番の着物・帯・半衿に刺繡しても、今は着用機会が少ないので、レッスン料も安くないため、日本刺繡をやりたいな、と思ってもハドルが高いと感じる方が多いです。私は、日本刺繡の素晴らしさ・楽しさを多くの方に知つていただきたい、制約のない自由な日本刺繡の機会を提供したいと思っています。額に入れて飾れるようにしたり、ピアスやブローチ等のアクセサリーにしたり、日傘に刺繡したり…。こうしなきゃいけない、という決まりはないべく設けないようにしています。日本刺繡を身近に感じて、楽しんでもらいたいです」。

生地や糸で作品の表情が変化する

日本刺繡の制作で必ず行つことは、「図案作成」です。テーマ、構図、配色など、考えることは沢山あります。



制作中の笹原さん



笹原さんの作品《寄り添う》

刺繡台に生地を張ります。布目を均等に貼らないと、完成後に刺繡が歪んでしまいます。そのため、最も重要な工程と言つても過言ではありません。生地に図案を下書きしたら、刺繡糸の準備です。蚕から取れた生糸(きいと)は何本かの糸がまとまって一本になつている平糸(ひらいと)の状態で販売されていますが、それをさらに分け、分けた糸を「2菅合わせ」や「4菅合わせ」に撚(よ)って使用します(「菅(すが)」=糸の最小単位)。

細い糸を使うからこそ、日本刺繡は繊細な表現が出来るのです。

撚らずに平糸のまま刺繡する事もありますが、この場合も一本の糸を何菅かに分けて使用します。柔らかい印象の花は平糸を使い、しっかりと糸を使い分けます。「掌の感覚はその糸によって

す。図案を考えるだけで何年もかかることがあるそうです。図案が決まつたら、次に生地を決めます。針を何回も刺すため、しっかりとした専用の生地がよく使われます。「生地を白のまま使つか、単色やグラデーションで染めて使つか、図案を元にイメージします。細かな色をイメージ通りに表現するため、生地は自分で染色します」と笹原さん。生地を準備したら、次は

刺繡台に生地を張ります。布目を均等に貼らないと、完成後に刺繡が歪んでしまいます。

そのため、最も重要な工程と言つても過言ではありません。生地に図案を下書きしたら、刺繡糸の準備です。蚕から取れた生糸(きいと)は何本かの糸がまとまって一本になつている平糸(ひらいと)の状態で販売されていますが、それをさらに分け、分けた糸を「2菅合わせ」や「4菅合わせ」に撚(よ)って使用します(「菅(すが)」=糸の最小単位)。

細い糸を使うからこそ、日本刺繡は繊細な表現が出来るのです。

撚らずに平糸のまま刺繡する事もありますが、この場合も一本の糸を何菅かに分けて使用します。柔らかい印象の花は平糸を使い、しっかりと糸を使い分けます。「掌の感覚はその糸によって

異なるため、経験と技術を要する作業です。同じ箇所で使う糸は、同じ撚りの形にしないと、うまく質感を表すことができません」と笹原さんは実演してくださいました。ここまで準備してやっと縫い始めることができます。日本刺繡は両手を使って縫うため、集中力が必要です。百種類以上ある技法を使い分けることで、強弱をつけた繊細な作品ができるかもしれません。

どれだけ作つても飽きない、日本刺繡の世界

笹原さんの作品へのこだわりは、こだわらないこと。教室での生徒さんへの指導だけでなく、自身の作品も柔軟な発想で自由に日本刺繡を楽しむことを大切にしています。

「とにかく綺麗なことが日本刺繡の魅力です。色も柄もバリエーションが豊かで、自由で、何枚制作しても次に縫いたい作品のイメージが湧き上がってくるんです。和風っぽい作品の次は洋風にしようかななど考えると止まらなくて、図案のストックがどんどん増えるから制作が追いつきません(笑)。

最後に、笹原さんの夢や目標についてお伺いしました。「二年ごとに開催している教室の作品展は、生徒さんにとっても楽しみにしてくれているので、これからも続けたいです。個人の夢は、大きな作品を作ること。実現させるためにも、まずは健康であること、今後も変わらずに自由な発想で作品を作り続けたいです」。



笹原さんの作品《雲中菩薩》

大崎第一地域センターでは、「はなぐるま」のほかにもSNSやサイトで、地域の様々な情報を発信しています♪ ぜひご覧ください！

*後日、地域共創メディア「大崎×五反田LINK」にカラーの記事が掲載されます♪



Twitter
@osakidai1



Instagram
osakidai1



大崎×五反田 Link
OSAKI × GOTANDA LINK

地域共創メディア
『大崎×五反田LINK』

